

農業労働力確保緊急支援事業（農業大学校機械導入事業）

1 趣旨

新型コロナウイルス感染症の影響による農業分野での人手不足を解消するため、府内の農業現場で利用されている省力化を図るための最新式の農業機械を導入し、操作方法を授業や実習を通じて学ぶことで、援農や地域農業の即戦力として活躍できる人材育成を行う。

2 事業内容

(1) 機械導入一覧

種類	更新を要する理由
野菜経営コース	
トラクタ	直進アシスト機能により、自動で真っ直ぐ耕転できることから、ほ場作業時間やスペースの無駄を省くことが可能。
超砕土成形ロータリ	水稲刈り取り後の水田畝立て時に、これまで以上に細かく砕土することが可能であり、定植作業の省力化や、また畝立て、マルチを同時に行うことで、省力化作業を学ぶことができる。
ラジコン草刈り機	中山間地の畦畔等の刈り取り時の農作業事故防止や熱中症対策として、今後、多くの農業法人等で普及が見込まれており、先駆的に導入することで、就職にも有利となる。
茶業経営コース	
粗揉機	既存の旧式機械では製茶技術は手の感覚で水分調整を行っているが、当該機では茶の水分変化を制御盤で「見える化」できるため、製茶に係る作業時間を短縮することが可能となる。
乗用型複合摘採機	摘採、剪枝、裾刈りなど、「葉層の除去」は高品質茶生産に不可欠な作業であり、これまでは、人力による作業を行っていたが、当該機はそれらの作業をmm単位で調整でき、省力化が図れる。
合 計	

3 事業実施主体

京都府

4 決算額 17,055千円

財源： 国 庫 17,055千円